

福島県PTA連合会会報  
第13号\_S57.02.20

# 大会主題

## 人間性豊かな子どもを育てる 創造的なPTA活動をすすめよう

不連P  
ふ  
ま

福島市黒岩字田部屋53-5  
福島県青少年会館内  
福島県PTA連合会  
発行人 菅野久俊  
印刷 泉孔印刷所  
福島市泉字熊野13-1  
電話 57-1071

### 第十三回東北PTA研究大会

### 第三十回福島県PTA大会終わる

第十三回東北PTA研究大会、第三十回福島県PTA研究大会は九月十日



一日、十二日の二日間にわたって、湯の町飯坂で県内および東北六県から二千五百余名の会員で盛大に開催された。

「人間性豊かな子どもを育てる」にはPTA、学校共に手をたずさえ、どのように進めばよいかを七分科会に分かれて熱心に討議し、すばらしい成果を上げることができた。二日目の講演には、会津本郷町出身の作家大石邦子氏から「車いすから見た私の人生」と題して生命の尊さ、真心、愛について話され、会員一同深い感銘を受けた。

### 福島県PTA連合会

### 創立三十周年記念式典終わる

福島県PTA連合会が発足して今年が三十年にあたる。

戦後の混乱した世相と教育界を建てなおすために多くの苦難を乗り越え、

新生日本、新教育発展へと先人は努力し、今日の世界にも誇れる学校教育を実現させたのである。

これを記念して去る十月二十八日(火)福島県文化センターにおいて県内各地から関係者の出席を願ひ盛大に挙行された。

式は君が代斉唱にはじ

まり、おごそかなうちに各時代を回顧しながら

県知事、県議会議長、県教育長、日本PTA全国協議会長、福島市長の各氏から祝辞をいただき、

関係各位への感謝状を贈りその労をねぎらった。

記念講演は「人間と文化と教育」と題し、福島県文化センター館長である佐藤光先生からいた

だき感銘を受けて式を終えた。

なお記念誌を発行して詳細をお知らせする。

伊達郡月館町立月館中学校PTA

「地域PTAの活動をどう充実したらよいか」

△協議会の内容

創造的な活動とはどのようなことに焦点がしぼられ、○時代の要請に対応する教育に依るPTA活動を生み出す。

○生涯教育の立場に立つて、未来を展望するPTA活動を生み出すことなどであると助言される。

### たくましい子どもにするために

### 各分科会活発に討議

#### 第一分科会

「創造的な活動を展開するための組織運営のあり方を考えよう」

○発表者 下山雄一氏

秋田県湯沢市立湯沢西小学校PTA

「創造的活動の充実を図るため、組織・運営はどうあるべきか」

○発表者 齋藤元氏

郡山市立芳山小学校PTA

「創造的な活動をめざす年間計画を編成するための試み」

○発表者 菅野宗一氏

「これからの教育のあり方を考え、それに対応する研修活動を進めよう」

○発表者 林 絹子氏

#### 第二分科会

「これからの教育のあり方を考え、それに対応する研修活動を進めよう」

○発表者 小野幸満氏

青森県尾上中学校PTA

「これからの教育のあり方を考え、それに対応する研修活動を進めよう」

○発表者 林 絹子氏

相馬郡飯豊村立白石小学校PTA

「これからの教育のあり方を考える研修の進め方はどうあるべきか。」

○発表者 佐藤喜宏氏  
白河市立白河第一小学校PTA

「心豊かで、良く働き、がまん強い子を育てる家庭教育をどう進めたらよいか」

◇協議会の内容  
学校教育と家庭教育との中で現在特に必要なは、家庭教育に対する父親の関心を高めることであらう。学校まかせで家庭教育をおろそかにする傾向があることは正すべきことである。

学校教育と家庭教育の役割分担を正しく認識する必要がある。

全体協議会では、県教育庁社会教育課長丑込幸男先生からこれからのPTA活動のあり方について適切なご指導ご助言をいただいた。  
また、大石邦子氏の記念講演は抜粋を次頁へ特集しました。

第三分科会

「新しいコミュニティづくりをめざすPTA活動を進めよう」

○発表者 大滝 満氏  
山形県三川町立東郷小学校PTA

「働くことのすきな子どもを育てるために」

○発表者 星 静男氏  
岩瀬郡天栄村立湯本中学校PTA

「地域の子どもの問題をとりあげてどう活動を進めたらよいか」

○発表者 長瀬文宏氏  
いわき市立植田小学校PTA

「地域の連帯感を強める地域活動はどうあればよいか」

◇協議内容  
仕事や手伝いよりも勉強第一という風潮はないか。学問も大事だが人間形成を培うには心身の調和のとれた発達をうながすことが基盤である。コミュニケーションづくりを進めるには、①健康な家庭づくり、②近隣社会との交流、③明るい町内づくり、④子ども会の育成などが大切であると助言者から受けた。

第四分科会

「PTAの文化活動のあり方を考え、その活動を進めよう」

○発表者 緑川興也氏  
東白川郡古殿町立田口小学校PTA

「会員の余暇活動への関心を取り入れた文化活動はどう進めたらよいか」

○発表者 軒沢美津子氏  
会津若松市立行仁小学校PTA

「郷土の文化財を理解するための活動をどう進めたらよいか」

○発表者 山田マチ子氏  
耶麻郡山都町立山都第一中学校PTA

「速報性を高める広報活動をどう進めたらよいか」

◇協議内容  
文化活動は広い分野にわたる。PTAの予算を大きな比重でしめる必要がある。文化活動の行事も子どもとの関連で位置づけ反映できるようにする。文化活動のみならずPTA活動に参加することは教育活動に加するのだという認識をもたなければならぬ。

第五分科会

「健全育成のための安全確保と環境の浄化を進めよう」

○発表者 小野寺 稔氏  
宮城県栗駒町立栗駒中学校PTA

「子どもをとりまく地域の環境づくりにどう取り組めばよいか」

○発表者 秋元 忠氏  
双葉郡川内村立川内第二小学校PTA

「親と子の安全意識をPTA活動の中でどう高めたらよいか」

○発表者 鈴木弘治氏  
二本松市立二本松北小学校PTA

「青少年の非行防止を強化に進めるにはどうすればよいか」

◇協議内容  
親と子の心の触れ合いの具体策は、真から心を開きあけて話し合うことである。そしてその機会をできるだけ多く持つことである。  
テレビ、ラジオ等による俗悪内容番組は事前に親が察知し排除するようにしていくよう努力する。常にあなたがかい目子どもを見てやること。

第六分科会

「たくましい子どもを育てる校外活動を進めよう」

○発表者 高橋清志氏  
岩手県鳥谷町立鳥谷小学校PTA

「自主性を育てる子ども会の育成」

○発表者 松本吉夫氏  
田村郡大越町立大越中学校PTA

「校外スポーツ団体活動をどう援助していったらよいか」

○発表者 相楽和子氏  
南会津郡田島町立松沢小学校PTA

「健全な育成を目ざす地域ぐるみの運動をどう広げていくか」

◇協議内容  
小学生だけでなく、高校生までの育成をはかりたい。地域ぐるみの活動しやすいようなPTAの組織・行事についてみなおす必要がある。  
育成会のあり方としては、今まではスポーツのみにとらわれていたが、文化活動、精神面へも間口を広げていくように努力すべきである。また、年間を通して行事を持つようにすべきである。

第七分科会

「心身に障害を持つ子どもの教育をどう理解し、協力するか考えよう」

○発表者 杉浦 博氏  
岩手県立花巻養護学校PTA

「心身に障害を持つ子どもの問題をPTA活動の中でどう取り組んだらよいか」

○発表者 米森 繁氏  
仙台市立鶴谷養護学校教諭

「地域との連携を柱に開かれた学校づくりを目ざして」

○発表者 遊佐 博氏  
福島県立郡山養護学校PTA

「障害児教育を充実させるための協力活動をどう進めたらよいか」

◇協議内容  
福島県立聾学校長  
「障害児教育を充実させるための協力活動をどう進めたらよいか」  
学校または親が理解と協力を待つのでなく、積極的に働きかける態度が必要であり、子どもと接しながら理解と協力を広めていくことが大切。

—記念講演—

「この生命燃ゆる限り」

—車椅子から見た私の人生—

大石邦子

私は二十一才まですこぶる健康だった。生命への危機感などもったこともなく、この自由も、健康も、若さも、平安も、どこまでも自分のもののような錯角すらあった。後に、このような境涯に落ちようとは夢にも考えなかった。しかし或る日、人生は一転する。一瞬の出来ごとだった。車中で倒れ、病院で気づいた時には、私は私でなくなっていた。手もあり足もあるのに、それはもはや知覚も痛覚もなく、身動き一つできない麻痺の身となっていた。

排泄の感覚すらわからなくなつて仰臥す私のまわりは青春のまっ只中である。私は人間でなくなつたような悲しみと孤独の中で、人間は何故こんなになつてまで生きねばならないのか。人間は何のためにこの世に生まれてくるのだろうか、くる日も、くる日も、そのことばかり考えていた。わからなかった。惨だった。死んで楽になりたいと思う。しかし動けぬ身には死ぬ手段もない。私のために経済的にゆきづまり、妹は大学の中退をよぎなくされる。目の前がまっ暗だった。自殺未遂二回。



指先五センチが無限の距離に思われる斗病の日々の始まりであった。そして、私の衝激にとどめをさすように、排泄の機能もまた失われていることを知らねばならなかった。

中の何と広々と美しく見えたことか。手鏡にみていた空が、鳥が、自分の目でふり仰げるようになったよるこび。訓練室のマットの上で、はじめて寝返りがうてた時、貧血を起し、発熱と嘔吐をくり返しながらも、五十センチ這うことができ、

人からみたら、何だそんなことかと一笑にふされるかもしれない。たしかに寂しい幸であるだろう。しかし私にとっては、まぎれないよるこびであり、それら一つ一つが生きる上での大きな支えになつていった。本当に苦しめば、どんな逆境の中にも、生きてゆけるだけのほのかな灯のようなものは用意されているのかも知れないと今は思う。いま一度、自分の足で地をふみしめてみたい。いま一度でいいから、自力で放尿してみたい。いま一度でいいから、なめらかに思うことが話せたなら。いま一度でいい、この目で母がみてみたい。ひたすらそう念じ、それを生涯の願いとしながら果たされぬままに死んでいった療友がどれだけいたことか。病院とはそういう所である。その人たちの全てが、まさか自分がそんな境涯に生きようとは思ってはいなかった人たちだったのだ。

明日のことがわからないからこそ生きられる。だからこそ、今日を精一杯生きなくてはいけないのだと——。私は健康者の生活と、障害者の生活を生きた人間であるが、体が動かなくなるということが、こんなにも気持まで萎縮させてしまうものとは思わなかった。二本の足で立っている人を見るだけで威圧された時代をもつ。見おろされて話す時の戸惑い。そういう状況の中で、ふっと無力な子供と大人の関係をおもいおこすこともあった。大人であるというだけで子供を威圧することもある。健康であるというだけで障害者を威圧することもあるというところに気が付かないで長いこと過してきた自分を思う。

或る時、私は一大ヒステリーを起したことがある。手当り次第に物を投げ、泣きわめく私の声が真夜中の病棟にひびき看護婦がとんできた。それでもやめず、看護婦は立ちすくみ、やがて床に膝をつく泣きわめく私の頭を抱きかかえるようにして、私をみつめていた。私は自分の非を自覚しているし、何故早く叱らないのかと思つていた。しかし彼女は何も云わずちよつと外の空気を吸つてこようか、と意外なことを云い、私を背負うと真夜中の階段を下りていった。その時の彼女の背の温もりを私は今なお忘れていない。あの背の温もりにもさるどんな論しの言葉があるだろう。自分の孤独や、やりばのなさをわかつてくれる人があるということぐらい、生きる上での大きな力はない。私は、その人に代つて生き、その人に代つて死ねない以上、人間が人間を救うことなどできないと思つている。しかし、絶望にあえぐ人々を支え、生きる気力をふるいたたせることのできるのも人間であり、人間の優しさであると思つている。この頃の、子供の自殺非行や暴力を思うにつけ、私はあの看護婦の背の温もりを想いだすのである。彼等がいま最も欲しているもののように思われて——。



福島県PTA連合会

会長 菅野久俊

新春を迎え気持ちを新たにしながら、五十六年度これまでの活動を振り返ると共に、残された活動の展開と、年度のしめくりにしっかりと対処したいと考えている処です。

県P三十年の記念誌の発行を始め、二月五日の第三回母親セミナーも盛會裏のうち無事終了。また安全互助会の補償内容の充実を目指す改正点の適切な案内と変らざる継承を要請する必要性を、強く感じておる処であります。理事の皆さん方の協力と支援を得て、効果的な推進と実践を期して参りたく存じます。

御承知のように、五十六年度は、県P通常の活動と共に第十三回の東北PTA研究大会の開催と、県P創立三十年を祝う記念式典の挙行、記念事業の実施など大きな負担があったわけですが、力強い協力体制に支えられ、

本当に充実した創造的な東北大会であり、盛大な意義深い式典と祝賀会の開催であったと思います。特に、国際障害者年の高揚をも意識しながら設定をした研究大会における大石邦子氏の講演会は、予期せざる程の期待と好評の中に実り多い姿で終らせることが出来たことは、誠に有難いことであると存じます。又、県P創立三十年を祝う記念事業として、これからの躍進と進展を象徴するよ

刊を期したいと存じます。今、青少年健全育成に赤信号と云った状況もありこの状態がある限り、PTA活動の真の充実と云い得ない面があるわけです、PTAがより一層姿勢を正しながら、青少年の心身を鍛える要素を学校に、家庭に、地域社会に創造しながら、活気に溢れ、思いやりと協調性のある青少年の育成を目指したいと存じます。

### 祝 文部大臣賞受賞

昭和56年度文部大臣賞受賞団体の紹介  
福島市立福島第三小学校 P T A

伝統を受けつぎ  
さらに充実した  
活動をめざして

福島第三小学校父母と教師の会は多くの方々の指導と会員各位の熱意に支えられ、先輩の伝統を受け、さらに充実を期して努力してまいりましたが、その業績が認められ、昭和五十六年度優良PTA団体として、去る十一月二十日、東京ホテルニューオータニで、晴れの文部大臣賞を受賞してまいりました。そこで本校のPTAのあゆみと会員の活動状況をのべてみたいと思えます。

- △今日までのあゆみ▽
- 昭22・9・15 福島第三小学校父母と教師の会結成
- 29・10・2 創立七十周年記念祝賀式を挙行
- 35・7・27 優良PTAとして県PTA連合会より受賞
- 47・1・29 ○会員のいっそうの資質向上をめざし、「PTA手帳」を作成するため、規約を全面的に洗い直した結果、従来の整美部から学区全体の教育環境整備を推進するため環境部を脱皮
- 36・3・25 玄関西側に石庭を造成
- 39・4・1 校旗、校章改訂に協力
- 39・5・15 創立八十周年記念祝賀式を挙行
- 39・9・4 八十周年記念事業として「母子の像」造設
- 39・11・3 教育文化功労団体として、福島県教育委員会より受賞
- 41・4・19 会則を一部改正し、マイカー時代に対応、専門部に補導部設置
- 43・6・13 国道四号線の交通量調査及び歩道橋設置陳情
- 45・8・27 優良PTAとして、日本PTA全国協議会より受賞
- 49・5・15 創立九十周年記念祝賀式を挙行
- 49・9・2 県連P指導者研修会において「会員の教養を高める方法」を発表
- 48・3・20 校舎落成記念として、「愛の庭」「勇気の庭」「誠の庭」造成
- 48・8・7 市連Pソフトボール大会において準優勝
- 48・11・18 県北PTA大会において「PTA活動と運営」について発表
- 49・4 学年部に予算配当、全員参加をめざし、親子活動、P自身の教養活動(学習会等)を強化

- 50・11・13 市連P家庭バレーボール大会において優勝
- 50・11・17 市連P研究協議会において「教養部活動の充実」について発表
- 51・7・14 市連P研修講座において「広報活動のあり方について」を発表
- 51・11・13 全国女性連福島大会において「PTAのクラブ活動のあり方」について発表
- 52・8・21 県連P塩川大会において「広報活動のあり方」について発表
- 53・10・6 東北学校保健仙台大会において「健康な児童の育成」について発表
- 54・6・6 PTA会長菅野久俊氏 県連P会長に就任
- 54・11・8 市連P小中学校PTA新聞コンクールで入賞
- 55・6・3 市連P研修講座において「学年学級PTAのあり方」について発表
- 55・9・12 東北PTA歳王大会に

○厚生部  
活動の中心は家庭バレーボールクラブ、ソフトボールクラブの効果的な運営で、日頃の練習と親睦の成果を各種大会で発揮している。

○広報部  
会報「しのぶ草」は年六回発行され、その内容は非常に水準の高いもので各種PTA新聞コンクールで最優秀賞を受賞している。編集活動は極めて熱心かつユニークなもので、五十六年度は「家庭のしつけ」というテーマのもとに一年間特集されている。

○環境部  
環境が人をつくるという学校の方針に全面的に賛同、ガラスふき、校地内外の整備、植物の手入れ等、年五回の奉仕作業は98%の参加率で、更にバザーを開催し収益金で教室のカーテンを更新する等、積極的に協力している。

○補導部  
児童の校外生活の指導の中心となり、一般の父兄や地区の有志、交通安全対策協議会、交通安全母の会、地区体育協会

△活動の状況▽  
◎教養部  
PTA自らが主催する学習活動の主軸をなすものは、教養部担当の教養講座、読書会、自校訪問でこれらはいずれも気軽に参加し足もとから見つめようという企画が好評で内容も充実している。

◎PTA自らが主催する学習活動の主軸をなすものは、教養部担当の教養講座、読書会、自校訪問でこれらはいずれも気軽に参加し足もとから見つめようという企画が好評で内容も充実している。

◎PTA自らが主催する学習活動の主軸をなすものは、教養部担当の教養講座、読書会、自校訪問でこれらはいずれも気軽に参加し足もとから見つめようという企画が好評で内容も充実している。

◎PTA自らが主催する学習活動の主軸をなすものは、教養部担当の教養講座、読書会、自校訪問でこれらはいずれも気軽に参加し足もとから見つめようという企画が好評で内容も充実している。

◎PTA自らが主催する学習活動の主軸をなすものは、教養部担当の教養講座、読書会、自校訪問でこれらはいずれも気軽に参加し足もとから見つめようという企画が好評で内容も充実している。

方々の協力を得て毎月十日には集団登校の指導、又、通学路の安全確保のためスクールゾーンのセフティコーンの設置、撤去を一年間日割り当番で実施、校外危険箇所の点検、標識立て、自転車教室の開催等、事故ゼロをめざして努力している。

以上、概容を述べましたが、任意による加入率も毎年百%で、研修するPTAとして、主体的・個性的に成長したいと願っている。

受賞して、多くの方々から、受賞の対象となった最大の活動は何かと聞かれることが多いが、私共の会には、特にこれが絶対と取り上げて自慢できるものはない。たゞ、本会は発足以来「子供の幸せを育てる会員活動」を築き、これを伝統として育て守り続けているが、敢えて特色をあげるとすれば、①学校及び社会の教養諸環境づくりの活動

②子供の学校内外における文化並びに体育活動への援助活動、③会員すべての教育活動の三つを、地域全体と密接に結びつけた実践を続けていること

現在、全会員への浸透と、社会教育諸団体との連携い活動へと広まりを

現在、全会員への浸透と、社会教育諸団体との連携い活動へと広まりを

現在、全会員への浸透と、社会教育諸団体との連携い活動へと広まりを

現在、全会員への浸透と、社会教育諸団体との連携い活動へと広まりを

現在、全会員への浸透と、社会教育諸団体との連携い活動へと広まりを

**祝 文部大臣賞受賞**

昭和56年度文部大臣賞受賞団体の紹介  
**田村郡常葉町立常葉中学校PTA**



常葉中父母と教師の会  
は、学校統合によって、昭和四十九年に発足して八年目に当る本年、予期もしなかった文部大臣賞の榮譽を受けることができた。

受賞して、多くの方々から、受賞の対象となった最大の活動は何かと聞かれることが多いが、私共の会には、特にこれが絶対と取り上げて自慢できるものはない。たゞ、本会は発足以来「子供の幸せを育てる会員活動」を築き、これを伝統として育て守り続けているが、敢えて特色をあげるとすれば、①学校及び社会の教養諸環境づくりの活動

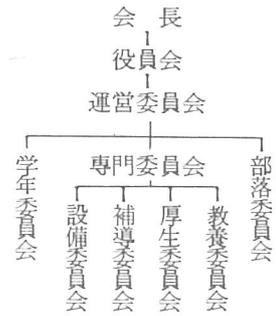
②子供の学校内外における文化並びに体育活動への援助活動、③会員すべての教育活動の三つを、地域全体と密接に結びつけた実践を続けていること

現在、全会員への浸透と、社会教育諸団体との連携い活動へと広まりを

現在、全会員への浸透と、社会教育諸団体との連携い活動へと広まりを

- (1) 本会の歩み
- 昭和49年 本会発足 (常葉中・関本中統合)
- 昭和51年 体育文化後援会結成
- 昭和51年 郡・県PTA会長賞並びに県教育長賞受賞
- 昭和51年 県学校緑化推進委員長賞受賞
- 昭和52年 町道徳教育の共同推進
- 昭和56年 文部大臣賞受賞

(2) 組織と運営機構



◎部落委員会

各部落会に於て五名の委員(長1、副1、委員3)を選出し、これによって委員会を構成する。

また、部落長会で選出された代表部落長(小学校下より各一名)の互選により委員長1、副委員長3が選出され運営委員長を兼ねることとなっている。

◎専門委員会

各委員会は、部落委員により構成され、委員長は運営委員を兼ねる。

◎学年委員会

各学年委員(五名)によって構成され、行事の企画・運営推進にあたる。各委員長は運営委員を兼ねる。

◎運営委員会

各委員長及び三役で構成され、総会に次ぐ議決機関である。

本会の特色は、前記のように、全部落委員によって選出された代表が専門委員会に所属して、活動推進にあたるため、部落を基盤(全会員)とした活動がし易い仕組みになっている。補導、厚生、設備委員会活動は自然に底辺への広がりによって支えられている。

(3) 主な活動内容

① 教養を高める活動
教養・学年委員会を中心として、毎年、講演会、講話を各二回と学年単位の教育懇談会を二回開き家庭教育の役割や非行化防止、学校家庭の連携について研修を深めている。また、学年委員会は、子供の成長発達に即した内容による研修、懇談、および、親・子・教師との三者相談・懇談を年間一〜二回実施している。さらに、先進校視察のほか、町連P及び公民館との共催による研修会二回、講演会二回と、単P活動と関係団体との連携

い活動の調和をはかった研修を実施している。

② 校外補導と生徒活動の育成

統合中であるだけに学区が広く、補導には補導委員会と部落委員会の協力のもとに進められる。登下校時の交通指導・下校時の安全確認・長期休業中の巡視・社会行事への参加指導は部落長を中心に部落単位の活動を取り、巡視だけでなく、野外での農作業中にも生徒の通学状況に全会員が目配る配慮をしている。

当町には、古くから伝わる子供の行事として、祭礼・天神・熊野講等が伝承され、男女生徒の夜間集会も多く、長期に亘るのもあり補導上の課題が多い。この対策に、一般的指導である補導から父兄も参加する文化活動の育成・助成の形をとり効果を上げていく。

校内での生徒活動には、体育文化後援会と提携して、参観と展示品の出品等生徒との交流の場も設けられている。これらは非行防止にも大きな役割を果たしている。

③ 会員の交流・学校環境の整備活動

会員交流は、専門・学年委員会活動の中で図られる外に、年一度の部落対抗球技大会を開いている。本会は部落を基盤とした構成であるため、大会までの、選手選考・練習をとおした会員交流も盛んである。

常葉中は、自他共に誇れるすばらしい環境にある。この環境の保持と緑化推進も本会の大行事で毎回、百分の出席を得て、学校教育に対する会員の意識の高さを誇りにしている。

④ 学年委員会活動と地域提携

学校教育に直接に関与するものは、学年委員会である。学年に応じて生徒・父兄・教師の対話と相談が行われる。

また、地域をあげての道徳教育や生徒指導の推進、町連Pをとおしての中小PTAの連携活動、公民館行事との連携を図る文化活動など、単P活動に止まらずに地域全体との結びつきも特色といえる。

反面、農村地帯にある本会の課題も多い。過疎化による単位部落の再編成・出稼ぎによる鍵っ子増加、誘致企業への主婦の進出と出席率低下。そんな中に、企業の会員出席に対する協力も出て来ている。希望をもって課題を解決してゆきたい。これが、受賞者の責務でもある。

PTA活動紹介

強く、正しく、美しく

会津若松市立日新小学校PTA

- ◇ 本会の沿革と特色
  - (1) 昭和二十八年五月十日 PTA創設総会開催
  - (2) 昭和二十九年九月二十二日 会津まつり日新少年白虎隊行列を主催する。
  - (3) 昭和三十一年十月十六日 校舎完工祝賀会
  - (4) 昭和三十三年十一月三日 県教委より優良PTAの表彰をうける。
  - (5) 昭和三十四年八月二十八日 泉川副会長日本連Pより表彰をうける。
  - (6) 昭和四十五年五月一日 PTA手帳発行(初回)
  - (7) 昭和四十七年四月一日 市教委よりモデル家庭教育学級開設指定をうける。
  - (8) 昭和四十八年十月十八日 県指定PTA公開研究発表会を行う。
  - (9) 昭和四十九年十一月十五日 県下学校新聞コングレPPTAの部第一位受賞：二年連続
  - (10) 昭和五十年四月十日 市教委より地域教育環境改善教育研究の指定をうける。
  - (11) 昭和五十年四月十日 市教委よりモデル家庭教育学級開設指定をうける。
  - (12) 昭和五十年八月二十

七日 日本PTA全国協議会より表彰をうける。

側面的な援助に努力を払っている。

○月に一回開催する。運営委員会の組織と運営

○第五学年PTA  
○第七月 親子磐梯登山

・月の中心課題を明確にし論説を取り入れる。

・四～三月 ごみ持ち帰り運動

(13) 昭和五十年十一月二十日 県下学校新聞コンクールPTAの部第一位受賞：三年連続

(5) 授業参観日の出席率は高く、その他の諸会合への出席率も高まってきた。ほとんどは母親である。

副会長 三(教頭一)  
総務 七(学年委員長六 先生一)

○第六学年PTA  
・七月 親子キャンプ  
・三月 親子合同お別れ会

・児童活動の様子を入れる。

○婦人消防クラブ  
・五月 発会式及映画会  
・六月 視察研修会  
・七月 人命救助講習会  
・九月十一月 消火器使用講習会

(14) 昭和五十一年十月十二日 文部大臣賞を受賞

(6) 地域教育環境の浄化生活指導についてはPTAが推進母胎となり、地域諸団体との緊密な連携を図りながら着実に成果を上げています。

常置委員長 四  
婦人消防クラブ長 一  
会計 三(先生一)  
学校長一 教頭一  
計二十一名で組織され、月一回定例運営委員会を開催、その月の行事等について話し合う。

○複式学級PTA  
・七月 清掃奉仕作業  
・十二月 クリスマス会  
・三月 六年生を送る会

◎環境厚生委員会  
楽しく無理のない活動を

・五月 運動会売店設置  
・五～三月 愛校奉仕作業  
・前庭垣根づくり年五回  
・七月 観光地、公共施設の清掃奉仕  
・九月 PTA球技大会  
・十一月 親子清掃  
・一～二月 通学路除雪

(16) 昭和五十五年五月一日 PTA婦人消防クラブ発足

◎成人教育委員会  
生きがいを見いだす楽しい活動をする。

(4) 常置委員会  
・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

◎歴史会長  
・五月 運動会売店設置  
・五～三月 愛校奉仕作業

・五月 運動会売店設置  
・五～三月 愛校奉仕作業

・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

(17) 昭和五十五年五月三十一日 市連Pより組織運営の面で表彰をうける。

(1) 会員 八四五名  
(2) 会費 二四〇〇円  
(3) 計二、〇三八、〇四二円  
(4) 支出  
○総務費 九九〇、〇〇〇  
(学年活動費も含む)  
○成人教育委員会費 一九〇、〇〇〇  
○校外指導委員会費 六五、〇〇〇  
○広報委員会費 三七六、〇〇〇  
○環境厚生委員会費 三一五、〇〇〇  
○婦人消防クラブ費 四〇、〇〇〇  
○予備費 六二、〇〇〇

○第一学年PTA  
・四月 交通安全教室  
・五月 入学記念植樹  
・十月 リンゴ狩り  
・二月 清掃教室  
フォークダンス

○第二学年PTA  
・六月 工場見学  
(本郷楽焼流文焼)  
・三月 清掃奉仕作業  
・第三学年PTA  
・六月 ハイキング  
(雄国沼)  
・九月 球技大会  
・三月 清掃奉仕作業  
・第四学年PTA  
・七月 親子社会科見学  
(郡山児童文化会館)  
・九月 親子ドッジボール  
・三月 清掃奉仕作業

・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

◇本PTAの特色  
(1) 学校創設以来二十七年、学校の教育目標「強く・正しく・美しく」をモットーとし、児童像の具現化をめざしてPTA活動を続けている。

○第二学年PTA  
・六月 工場見学  
(本郷楽焼流文焼)  
・三月 清掃奉仕作業  
・第三学年PTA  
・六月 ハイキング  
(雄国沼)  
・九月 球技大会  
・三月 清掃奉仕作業  
・第四学年PTA  
・七月 親子社会科見学  
(郡山児童文化会館)  
・九月 親子ドッジボール  
・三月 清掃奉仕作業

○第二学年PTA  
・六月 工場見学  
(本郷楽焼流文焼)  
・三月 清掃奉仕作業  
・第三学年PTA  
・六月 ハイキング  
(雄国沼)  
・九月 球技大会  
・三月 清掃奉仕作業  
・第四学年PTA  
・七月 親子社会科見学  
(郡山児童文化会館)  
・九月 親子ドッジボール  
・三月 清掃奉仕作業

◎広報委員会  
会報発刊にあたって  
・会報モニターの依頼  
・会報アンケートの実施  
・他校研修  
・月刊発行 A四判四頁  
・速報性を加える  
・会員の投稿を広げる

・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

(2) 本会の活動推進のため中堅会員が自主的・意欲的に活動している。

○第一学年PTA  
・四月 交通安全教室  
・五月 入学記念植樹  
・十月 リンゴ狩り  
・二月 清掃教室  
フォークダンス

○第二学年PTA  
・六月 工場見学  
(本郷楽焼流文焼)  
・三月 清掃奉仕作業  
・第三学年PTA  
・六月 ハイキング  
(雄国沼)  
・九月 球技大会  
・三月 清掃奉仕作業  
・第四学年PTA  
・七月 親子社会科見学  
(郡山児童文化会館)  
・九月 親子ドッジボール  
・三月 清掃奉仕作業

◎広報委員会  
会報発刊にあたって  
・会報モニターの依頼  
・会報アンケートの実施  
・他校研修  
・月刊発行 A四判四頁  
・速報性を加える  
・会員の投稿を広げる

・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

(3) 父兄の子どもに対する教育的願望は非常に強い。

○第一学年PTA  
・四月 交通安全教室  
・五月 入学記念植樹  
・十月 リンゴ狩り  
・二月 清掃教室  
フォークダンス

○第二学年PTA  
・六月 工場見学  
(本郷楽焼流文焼)  
・三月 清掃奉仕作業  
・第三学年PTA  
・六月 ハイキング  
(雄国沼)  
・九月 球技大会  
・三月 清掃奉仕作業  
・第四学年PTA  
・七月 親子社会科見学  
(郡山児童文化会館)  
・九月 親子ドッジボール  
・三月 清掃奉仕作業

◎広報委員会  
会報発刊にあたって  
・会報モニターの依頼  
・会報アンケートの実施  
・他校研修  
・月刊発行 A四判四頁  
・速報性を加える  
・会員の投稿を広げる

・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

(4) 学校教育充実のため

○第一学年PTA  
・四月 交通安全教室  
・五月 入学記念植樹  
・十月 リンゴ狩り  
・二月 清掃教室  
フォークダンス

○第二学年PTA  
・六月 工場見学  
(本郷楽焼流文焼)  
・三月 清掃奉仕作業  
・第三学年PTA  
・六月 ハイキング  
(雄国沼)  
・九月 球技大会  
・三月 清掃奉仕作業  
・第四学年PTA  
・七月 親子社会科見学  
(郡山児童文化会館)  
・九月 親子ドッジボール  
・三月 清掃奉仕作業

◎広報委員会  
会報発刊にあたって  
・会報モニターの依頼  
・会報アンケートの実施  
・他校研修  
・月刊発行 A四判四頁  
・速報性を加える  
・会員の投稿を広げる

・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

・五月 運動会協力  
・六月 補導懇談会  
・七～八月 祭礼補導  
・一～二月 通学確保のための除雪作業

### 地域ぐるみで子どもたちの健全な育成をめざす活動

岩代町立旭中学校PTA

1はじめに  
旭地区では、現在、地域ぐるみで子どもたちの健全な育成を目指す運動が展開されている。本校PTAは、その中心母体として活動している。

さて、子どもの健全な育成をとりまく現状と問題

題は、つぎの通りである。

(1) 「健全な育成」をめぐる地域の現状

○子どもたちの見方、考え方が非常に多様化していること。例えば功利的打算的な傾向、他に対する思いやりや奉仕の弱体化

自制心・忍耐力の欠除、

集団的な自制心の欠除等  
子どもの生活意識に問題  
がある。

○子どもの生活基盤が変  
化している。家族構成の  
変化、共働き家庭の増  
加、母親中心の家庭の増  
加等都市型の家庭が増え  
ている。

○子どもをとりまく社会  
環境が変化している。車  
社会の拡大、地場産業の  
増加、進学率の向上など  
の傾向が進んでいる。

(2)「健全な育成」をめぐ  
る地域の問題

○健全な育成のための幾  
多の組織が現存するが、  
それを総括する組織の立  
ち遅れが目立つ。また、  
同一学区における各单位  
PTA間の連携を密にす  
る具体的方策が必要であ  
る。さらに、子どもの健  
全な育成について、同一  
見解に立つ地域の組織と  
活動が必要である。

以上のような認識にた  
って、本校PTAはつぎ  
のように活動している。  
2「健全な育成」のため  
の活動と実際

(1)旭中PTAとしての活  
動  
○単位PTAとしての活  
動は、各専門部の活動の

一部として実施している。  
補導部による部落懇談会  
は、大字単位に農作業の  
繁多の状況に合わせて、  
夜間に実施し、両親の参  
加を呼びかけている。懇  
談の内容としては主とし  
て家庭と学校との連携、  
非行等の問題に焦点をし  
ぼった討議と対応策の検  
討をする。

教養部による広報活動  
は年三回の広報紙「旭中  
PTAだより」の発行と  
主として家庭教育に焦点  
をしぼった教育講演会を  
年一回開催している。

各種研修会等の参加は  
PTA役員ばかりでなく  
一般会員に参加の機会が

多くなるよう工夫してい  
る。そして研修内容の伝  
達については、広報紙を  
活用して行っている。

(2)旭地区PTA連絡協  
会との連携活動

この協議会は、学区内  
百目木小、田沢小、旭中  
の三校によって構成して  
いる。活動内容は主とし  
て広報活動に力を入れて  
いる。特に、長期にわた  
る休業についての生活の  
基本的事項についての共  
通理解ならびにパンフレ  
ットの配布、危険箇所の  
調査と分布図の作成と配  
布を行っている。

また、年二回開催され  
る協議会では、児童・生  
徒の具体的な問題につい  
ての情報交換、対応策の  
検討を行っている。

(3)旭地区青少年健全育  
成協議会との連携活動

この協議会は昭和五十  
四年九月に結成された組  
織で家庭・学校・地域社  
会の連携によって、次代  
をにう健全な青少年の  
育成をはかることを目的  
としているものである。

①地区健全育成協議会と  
PTAとの連携

この会の発足にあたっ  
ては、地区内の単位PT

A三校をもって構成した。  
各単位PTAの設立にか  
かる熱心な組織づくりと  
協力とが、この会の原動  
力になった。現在、旭中  
PTAはこの会の中心的  
母体となっている。

三名は、協議会の広報普  
及委員として、広報活動  
に参画している。さらに  
PTA補導部長と同副部  
長の三名は生活委員をつ  
とめ、PTA補導委員と  
協力して実質的活動につ  
とめている。

日には、学区内の巡回指  
導に参加している。  
○五十六年度から、大字  
単位の部落青少年健全育  
成懇談会が開催されてい  
るが、健全育成にかかる  
懇談と映画を通して研修  
を深めている。

昭和五十六年度は運動  
目標として、  
○家族みんなで明るい家  
庭をつくらう。

○広報紙「日山」は年四  
回の発行が計画されてい  
るが、PTA会員の青少  
年問題についての考えを  
積極的に寄稿し、広報活  
動に協力している。

最後に、PTA活動全  
体を、新たな視点にたっ  
て見直し、進展させてい  
くことが、これからの課  
題であると考えている。

○明るい地域社会の環境  
をつくり、青少年の非  
行をなくそう。  
○子どもを事故から守る  
う。

○「愛の一声運動」の実  
践、いつでも、どこでも  
だれでも、愛の一声を日  
常活動として推進してい  
る。毎月一日の生活指導の

◇未来を背負う立派な青  
少年に育て上げる基礎を  
作ってやるのがPTA活  
動です。

○青少年の非行の問題に  
ついて焦点をあてた講演  
会が年一回開催されるが、  
地域ぐるみで参加し、非  
行の実態や家庭のあり方  
について研修している。

◇学校、家庭、地域社会  
全体でいつも子ども達を  
見守り、心の豊かな人に  
なれるよう励ましてやり  
ましょう。

◇会報発行のためご協力  
くださった各学校、関係  
者に厚くお礼申しあげま  
す。(水保小・加藤)



編集後記

◇未来を背負う立派な青  
少年に育て上げる基礎を  
作ってやるのがPTA活  
動です。